

JACS NEWSLETTER

日本消費者行動研究学会ニューズレター

第28巻第2号

発行日●2020年7月17日

発行●日本消費者行動研究学会事務局

第61回 消費者行動研究コンファレンス～オンライン開催のお知らせ

秋の消費者行動研究コンファレンスにつきまして、ご案内いたします。今回は JACS 初のオンライン・コンファレンスにて開催します。現在、コーディネーターの須永努先生（関西学院大学）を中心としてプログラムを検討中です。

詳細については次号で再度お知らせいたします。統一論題、自由論題、プロポーザル賞、会長講演、会員総会、役員会選挙など、盛り沢山の予定です。どうぞお楽しみに。

開催日程：2020年10月24日（土）・25日（日）

開催形式：オンライン（ホスト校：大阪市立大学）

自由論題研究報告など募集！

秋のコンファレンスにおける自由論題研究報告の報告者を募集します。今回はオンライン開催となります。詳細は、JACS Web サイト（<http://www.jacs.gr.jp/>）をご覧ください。

第60回 役員会開催報告

第60回消費者行動研究コンファレンスはコロナ禍により中止となりましたので、2020年5月16日に、メール審議にて役員会が開催されました（会員総会は中止）。

ほぼ、例年通りの内容で審議が行われ、第59回コンファレンス収支報告、2020年度 JACS 年間スケジュール、『消費者行動研究』の発行状況、特集論文セッション開催、2020年ニューズレターの対応、学会コミュニケーション活動、日本リテンション・マーケティング協会との提携事業に関する件はすべて承認されました。

審議事項に関しては、新規入会・退会および2020年度の予算案は仮承認、2019年度の決算報告、事業計画、組織及び役員担当、学会賞審査委員、国際学会派遣審査委員、JACS-樫尾俊雄論文プロポーザル賞審査委員およびプロポーザル賞応募募選考、特集論文運営委員・特集論文編集委員、第61回コンファレンス開催、第62回コンファレンス開催、『消費者行動研究』運用規定、国際学会派遣事業の運用および採択者の義務、名誉会員推薦、新型コロナウイルス流行への対応、会費滞納者に関する件はすべて承認されました。

以上、ここに報告致します。

(予告)「特集論文セッション」報告者募集について

第64回消費者行動研究コンファレンス（2022年春）より開始します「特集論文セッション」の報告者募集について、別紙にて予告しております。ご覧ください。

— 第 19 回 JACS—樫尾俊雄 論文プロポーザル賞 優秀賞 —

「消費者の購買動機がユーザー共創表示の有効性に与える影響」

岡田 庄生（法政大学大学院、株式会社博報堂）

この度は、第 19 回 JACS—樫尾俊雄論文プロポーザル賞優秀賞を賜りましたこと、大変光栄に存じます。審査員の先生方、およびコンファレンス運営にご尽力下さった方々に、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

新型コロナウイルスの影響は、我々の行動に大きな影響を与えています。外出自粛など行動に大きな制限がかかる一方で、自宅で出来る料理や野菜の栽培、マスクのDIYなどモノづくりを始める人が増えている、そんなニュースも目にしました。不自由な生活の中にあっても、創造性を発揮して楽しみたいという消費者は少なくないのかもしれない。

今回、私が研究対象として提案させていただいたのは、そのような創造性を発揮して、企業では生み出せないイノベーションを創出する消費者(ユーザー)に着目した研究です。近年、ユーザーならではの経験や知識をもとにイノベーションを生み出す消費者に着目した「ユーザーイノベーション」と呼ばれる研究分野に注目が集まっています。また、そのような高い問題解決能力を持ったユーザーを製品開発のプロセスに積極的に取り入れる企業が増えています。このような企業とユーザーとの共創活動は、今後ますます加速すると予想されています。

さらに、ユーザーと共創した製品を発売する際に、「ユーザーのアイデアから生まれた」と表示することで、一般消費者の購買意欲を高めることも明らかになっています。ユーザーイノベーションは製品開発プロセスだけでなく、販売のプロセスにおいても、大きな影響を及ぼしているのです。私は、ユーザーが製品アイデアの発案者であることを明示することで得られる効果を「発案

者効果」と名付け、研究を進めています。

発案者効果に関する様々な研究がすでに行われています。しかし、元々企業のイノベーションマネジメントや製品開発の研究から派生しているため、消費者が持つ購買動機などの個人差についての影響を考慮した研究は多くありません。消費者行動分野の研究と統合していくことで、ユーザーのアイデアから生まれた製品が、なぜ、どんなときに、どのようにして、消費者に受け入れられるのかを解明していきたいと思えます。

これらの研究は、私の指導教官である法政大学の西川英彦先生が世界的にも先端的な研究をなさっており、その成果は Journal of Marketing Research など海外ジャーナルでも発表されています。そのような先生の下で学ばせていただき、また海外学会などに一緒に参加できることは、とても幸運なことだと感じています。西川先生も元実務家であり、研究者となった今でも実務と研究の架け橋となるような活動をなさっています。私も、実務家と研究者の頭を使い分けつつ、どちらにも貢献できるような研究をできるような研究者になるべく精進していきたいと思えます。

また、西川研究室には、静岡大学の本條晴一郎先生をはじめ、豊富な知識と経験を持つ社会人博士課程・修士課程の学生が多く集まり、そのようなメンバーと共に議論を重ねられることも、研究を行う上で大きな刺激を頂いています。ゼミのメンバーにも深く感謝したいと思います。

最後に、いつも優しくアドバイスをくださる副査の新倉貴士先生にも、厚く御礼申し上げます。

今回は、本当にありがとうございました。

2019 年度決算報告

2020年5月16日に開催されたメール審議による役員会において、2019年度決算報告が行われ、承認されました。なお、2020年度予算案は仮承認のため、秋の会員総会にて正式承認を得る予定です。

科 目	予算額	決算額	差異
1) 収入の部			
会費収入	6,840,000	5,915,000	925,000
学術会員	4,580,000	4,115,000	465,000
学術学生会員	405,000	325,000	80,000
個人賛助会員	205,000	120,000	85,000
法人賛助会員	1,050,000	1,000,000	50,000
滞納等	600,000	355,000	245,000
コンファレンス収入	2,000,000	1,801,000	199,000
学会誌販売収入	160,000	62,286	97,714
雑収入	0	31,102	-31,102
助成金	500,000	500,000	0
収入合計	9,500,000	8,309,388	1,190,612
2) 支出の部			
印刷費	400,000	369,121	30,879
ニュースレター	400,000	369,121	30,879
事務費	1,000,000	952,989	47,011
学会誌印刷・発送一式費	500,000	420,692	79,308
通信費	150,000	143,122	6,878
Webホスティングサービス利用費	100,000	101,798	-1,798
その他	250,000	287,377	-37,377
事業運営費	4,550,000	3,849,634	700,366
コンファレンス支出	2,000,000	1,852,928	147,072
コンファレンス開催費(開催校補助費)	400,000	400,000	0
コンファレンス会場費	270,000	327,010	-57,010
学会誌作成費(査読謝礼費)	250,000	147,696	102,304
査読システム運用費	250,000	132,000	118,000
学会誌サポート費	550,000	360,000	190,000
国際交流事業費	250,000	200,000	50,000
ワークショップ開催費(開催補助費)	480,000	0	480,000
プロポーザル賞賞金	0	400,000	-400,000
学会賞賞金	100,000	30,000	70,000
予備費	3,550,000	3,342,765	207,235
査読(出版)システム開発費	250,000	0	250,000
事務委託費	3,300,000	3,342,765	-42,765
支出合計	9,500,000	8,514,509	985,491
当年度収支差額	0	-205,121	205,121
前年度繰越金	34,031,689	34,031,689	0
次年度繰越金	34,031,689	33,826,568	205,121

上記の通り報告いたします。

事務局担当理事 高橋 広行 印

上記の報告を適正なものと認めます。

監事 八島 明朗 印

学会費の「銀行振込み」についてのお願い

会費納入に際しましては、事務局から郵送でお送りしている「郵便局の振込用紙」でのお振り込みをお願いしておりますが、

銀行振込をご利用の場合、大学名や企業名などの「組織名」から入力されますと、振り込みました「個人名」が特定できないというケースが出てきます。「銀行振込」の際には、必ず「個人名」から記入していただきますよう、ご協力をお願い致します。

やむを得ず組織名から（または組織名のみ）の振込人名になる場合は、事務局まで e-mail にてご一報いただきますようお願い致します。

ご所属・ご住所の変更についてのお願い

★ご登録の所属先等が古いままで、更新されていない方が多く見受けられます。

ご所属やご住所が変更となる際には、必ず JACS 事務局へご連絡ください。お手数ではございますがよろしくお願い致します。

なお会費納入時、「郵便局の振込用紙」に変更箇所を明記されるケースが見受けられますが、変更のご連絡は、下記 JACS 事務局までお願い致します。

なお、JACS Website からご自身で直接、変更可能ですので、是非ご活用ください。

新入会員の募集について

本学会への入会を希望される方は、ホームページから入会申込書をダウンロードの上、必要事項を記入、捺印の上、事務局まで郵送でお送り下さい。

●入会資格**[学会会員]**

消費者行動の研究・教育に従事する大学の専任教員、大学院在籍者（在籍経験者を含む）、およびそれに準ずる者（文部省が学術研究団体と認める学会の正会員、大学の非常勤講師としての教歴を有する者、等）。但し、学会会員 2 名の推薦が必要。

[賛助会員]

本学会の趣旨に賛同する法人および個人。法人会員の会員特典については、事務局へお問い合わせください。

●年会費

[学会会員] 10,000 円

（但し、大学院生は 5,000 円に減免）

[賛助会員] 個人会員 1 口 5,000 円
法人会員 1 口 50,000 円

●日本消費者行動研究学会(JACS)事務局のご案内●

(事務局) 同志社大学 商学部 高橋広行研究室
〒602-8580 京都府京都市上京区今出川通烏丸東入
Email: jacs.assist@gmail.com

(事務取扱) 日本消費者行動研究学会 事務取扱
〒112-0012 東京都文京区大塚 5-3-13 小石川アーバン 4F
一般社団法人 学会支援機構内
Tel: 03-5981-6025 Fax: 03-5981-6012 Email: jacs@asas-mail.jp

<JACS Website> <http://www.jacs.gr.jp/>

【 予 告 】

第 64 回消費者行動研究コンファレンス（2022 年春）より開始 「特集論文セッション」報告者募集について

2020 年 7 月 特集論文運営委員会

■ 特集論文セッションの目的

『消費者行動研究』は、日本消費者行動研究学会の機関誌として、消費者行動研究の分野において有用かつ高水準の理論的・方法論的・実践的な論文などを公表することを通じ、消費者行動研究の科学的発展に貢献することを目的としています。

このような意欲的な目標を掲げ、学会は『消費者行動研究』の刊行を続けてきましたが、学会創立 30 周年に先立ち、2018 年度より新倉貴士会長のイニシャティブのもと、学会誌諮問委員会が発足し、学会誌の再活性化を目指し新スキーム案が提出されました。この案を踏まえて、消費者行動研究コンファレンスのプログラム編成と学会誌『消費者行動研究』の体制について新しい方針が策定されました。

この方針では、①春のコンファレンスに「特集論文セッション」を設けること、②学会誌『消費者行動研究』で特集論文号を通常の投稿号と並行して刊行すること、③これらの実施のために「特集論文運営委員会・編集委員会」を設置すること、が大きな柱となっています。

また、特集論文セッションのテーマは、学会全体を考慮して、特定の分野に偏らず公平に設定・編成するよう、役員会と総会で審議事項とすることとされています。

上記のような学会活動活性化という目的に基づいて、特集論文セッションの報告者を募集いたします。特に、若い研究者・大学院生からの活発な応募を期待いたします。

なお、本募集内容は、2020 年 6 月の学会執行部、ならびに 7 月の役員会の審議を経ております。募集内容は 2020 年 10 月に行われる会員総会での承認を経たうえで正式公開となりますが、会員の皆様にできるだけ早く情報をお知らせしたく、ここにプレアナウンスさせていただきます。場合により本予告の内容に変更が生じる場合がありますので、ご承知おきください。

■ 特集論文セッションテーマ（案）

テーマタイトル【環境変化に対応する消費者行動研究の新領野】

新たなテクノロジーやメディアの登場、そして自然災害や未知のウイルスの世界的拡大などによって、消費者を取り巻く環境は劇的に変化しています。今回の特集論文では、今日の変化する消費者環境における新しい消費者行動研究を特集することといたしました。

研究テーマの例としては、以下のようなトピックを挙げましたが、これらのトピックに限定されるものではありません。変化する消費者環境や消費者課題に着目し、新しい分析調査手法を考慮した、意欲的な研究論文の投稿をお待ちしております。

具体的テーマとして考えられる例：

- 1) 新しいテクノロジーと消費者行動に関する研究
- 2) ソーシャル・ネットワークと消費者行動に関する研究
- 3) パンデミックと消費者行動に関する研究
- 4) アクセスペースの消費やリキッド消費に関する研究
- 5) 消費者のウェルビーイングに関する研究 …など

■ コンファレンス応募概要

2022年5月に開催される第64回消費者行動研究コンファレンスでの特集論文セッションの発表者を募集します。原稿の締め切りは2021年12月末を予定しています。発表者のうち1名が学会会員であれば共同発表でも構いません。発表を希望される方は、期日までに事務局までお申し出下さい。

発表順などは事務局で調整させていただきます。なお特集論文セッションは要旨を提出いただき、査読審査を実施した上、発表者を選考致します。また査読を通過された発表者には、その後『消費者行動研究』への論文投稿を義務付けます。よって、学会として、特集論文セッション要旨を研究業績とは認めません。

特集論文セッションへ応募を希望される方はその点をご留意いただき、下記の要領に従い、e-mailにてお申込み下さい。たくさんの会員の皆様からの応募をお待ちしております。

◆**申 込 先**；日本消費者行動研究学会 事務局 jacs@asas-mail.jp

◆**受付期日**；受付開始 2021年5月1日から 2021年12月末日まで（予定）

◆**文字数**：要旨 8,000 字程度＋要約 400 字以内

※**詳細な執筆要領やスケジュール**に関しては、別途ご案内予定です。

■ 特集論文運営委員会

委員長 田中洋（中央大学）

委員 菅野佐織（駒澤大学）/委員 外川拓（上智大学）

■ 特集論文編集委員会（案）

委員長 田中洋（中央大学）

委員 井上淳子（成蹊大学）/委員 杉谷陽子（上智大学）/委員 松井剛（一橋大学）

各種申込先・問合せ先

<E-mail>日本消費者行動研究学会 事務局 jacs@asas-mail.jp

<住 所>〒112-0012 東京都文京区大塚 5-3-13 小石川アーバン 4F

一般社団法人 学会支援機構内 日本消費者行動研究学会 事務局
